

湘南の名城

藤沢市
指定史跡

大庭城跡



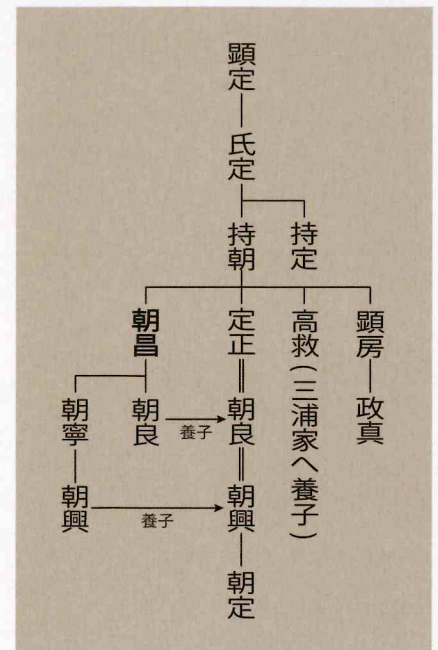
藤沢市郷土歴史課

大庭城について

大庭城は東側には引地川、西側には小糸川が流れる舌状台地の先端部に位置する天然の要害です。築城時期は不明ですが、長享2年(1488年)には相模国の守護であった扇谷上杉氏の一門である扇谷上杉朝昌という人物が城を守っていたことが当時の記録から判明しています。このことから大庭城は扇谷上杉氏の手により築城されたものと考えられています。

築城以来、大庭城は扇谷上杉氏の重要拠点として機能してきましたが、永正9年(1512年)に小田原北条氏の初代・伊勢宗瑞(通称・北条早雲)により攻め落とされてしまいます。その後の大庭城ですが、北条氏により改修され使用されたのか、それとも廃城になったのかは記録に残っていません。ただし伊勢宗瑞が大庭城を攻め落とした同じ年に玉縄城(鎌倉市)を築いていることから、少なくとも重要拠点としての役割は終えたものと考えられます。

※要害：守りやすく、攻めにくい所



扇谷上杉氏略系図

大庭城の防御施設

大庭城には石垣や天守閣などは存在せず、土塁と堀を多用した、いわゆる「土の城」でした。これは大庭城だけに限らず、戦国時代に造られた関東の多くの城が同様の構造であり、石垣や天守閣を持つ「石の城」が関東にできるのは江戸時代になってからです。

「土の城」の特徴は、堀を関東ローム層(いわゆる赤土)まで掘り下げるところにあります。関東ローム層は非常に滑りやすいため、堀に落ちたらなかなか登ることが出来ません。また堀を掘った際に出た残土で土の壁である土塁を築くことで、より高い防御性を持つことができます。

現在は城址公園として多くの人たちに親しまれている大庭城ですが、現在でも公園内には多くの堀跡や土塁を見ることができます。



ローム層を削り出した斜面

大庭城にまつわる伝承

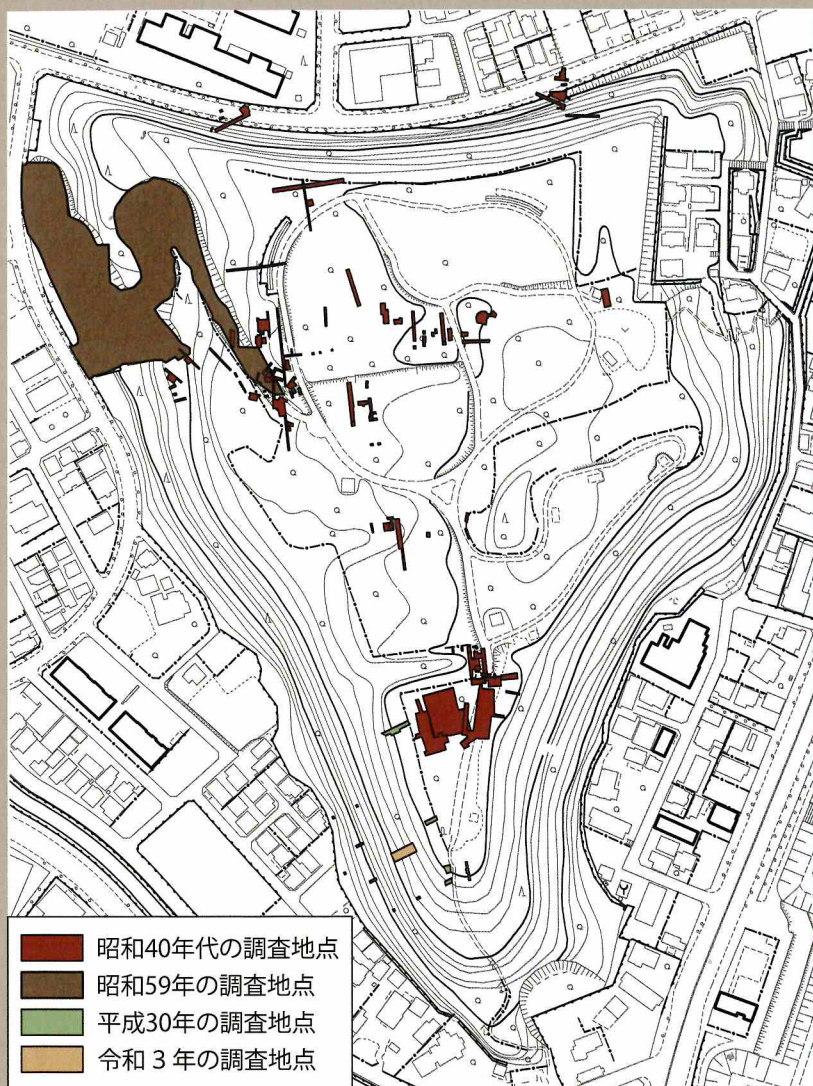
江戸時代の終わり頃に成立した『新編相模国風土記稿』には大庭城の伝承が記されています。それによると、大庭城は元々平安時代後期の武士・大庭景親の居館を戦国時代に築城の名手であった太田道灌が城として造り直した、というものです。ちなみに大庭城と同時期の資料『玉隠和尚語録』には大庭景親の居館跡と大庭城は別々の場所であることが明記されているので、いつの頃からかこの2つが混ざって後世に伝わったものと思われます。

この他にも大庭城址公園の南側に鎮座する、舟地藏にも大庭城にまつわる伝承があります。文献にはほとんど登場しない大庭城ですが、たくさんの伝承が誕生するほど地域の人たちには愛された城跡です。

大庭城跡の発掘調査

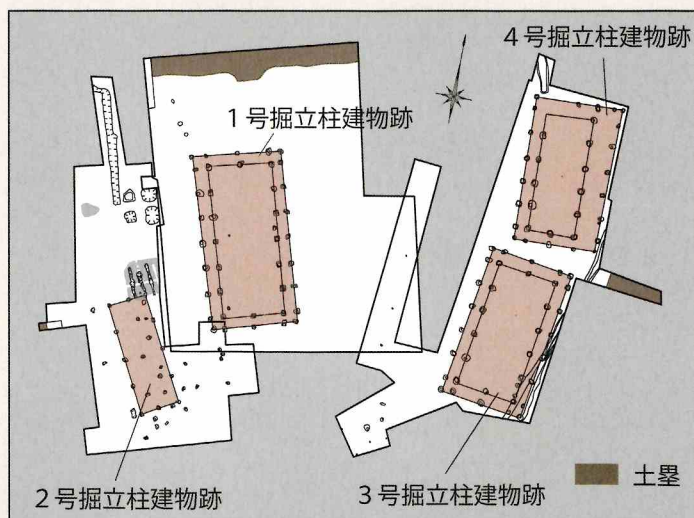
大庭城跡は区画整理事業に伴い昭和43年（1968年）に初めて発掘調査が行われました。その結果、多くの掘立柱建物跡や堀跡など、様々な遺構や遺物が確認されました。その後城址公園整備や法面整形などでも調査が行われ、令和3年（2021年）の調査では、人工的に平らな場所（平場）を造成した帯曲輪も確認されました。この調査成果がきっかけとなり、大庭城跡は令和3年12月1日に藤沢市指定史跡となりました。

これまでの発掘調査は中央の平らな場所と西斜面にとどまり、本来大庭城の正面である東斜面は現在のところ調査されていません。今後調査が進むことで大庭城のさらなる解明に期待がかかります。

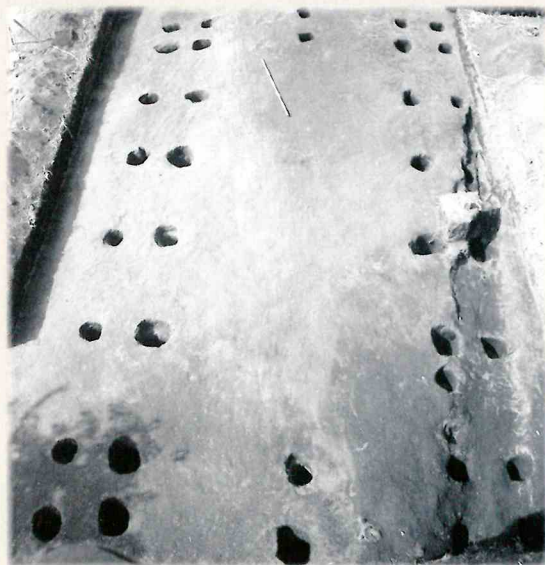


昭和40年代の調査

大庭城跡の遺構の残り具合を調べるための調査でした。調査の結果、頂上の平坦部をはじめ、斜面まで堀跡や土塁など様々な遺構が良好に残っていることが判明しました。特に現在「館址広場」とされている一番南側の平らな場所では、大型の掘立柱建物跡3棟が見つかり、うち1棟の柱穴からは戦国時代のものと考えられる炭化した米が出土しました。



見つかった掘立柱建物跡位置図



3号掘立柱建物跡

平成30年・令和3年の調査

館址広場では、昭和40年代の発掘調査で複数棟の掘立柱建物跡が見つかったことから、ここが大庭城の中心的な場所（主郭）であったと考えられます。平成30年の調査ではこの主郭の西側斜面の調査を行ったところ、堀跡が見つかりました。また令和3年には平成の調査で見つかった堀の下側を調査しましたが、その結果、人工的に平場を造成した帯曲輪や堀跡が見つかりました。

この平成と令和の調査により、大庭城主郭西側にどのような防御施設が存在していたか判明しました。



主郭西側の土塁と堀



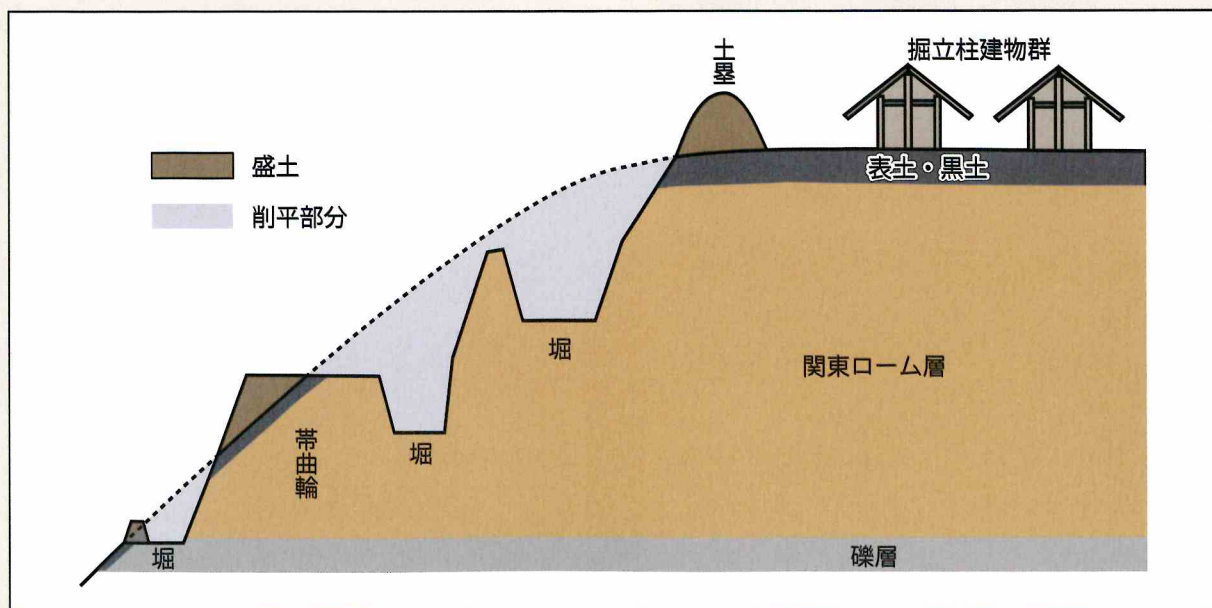
平成30年の調査で見つかった堀



令和3年の調査で見つかった堀



令和3年の調査でみつかった帯曲輪

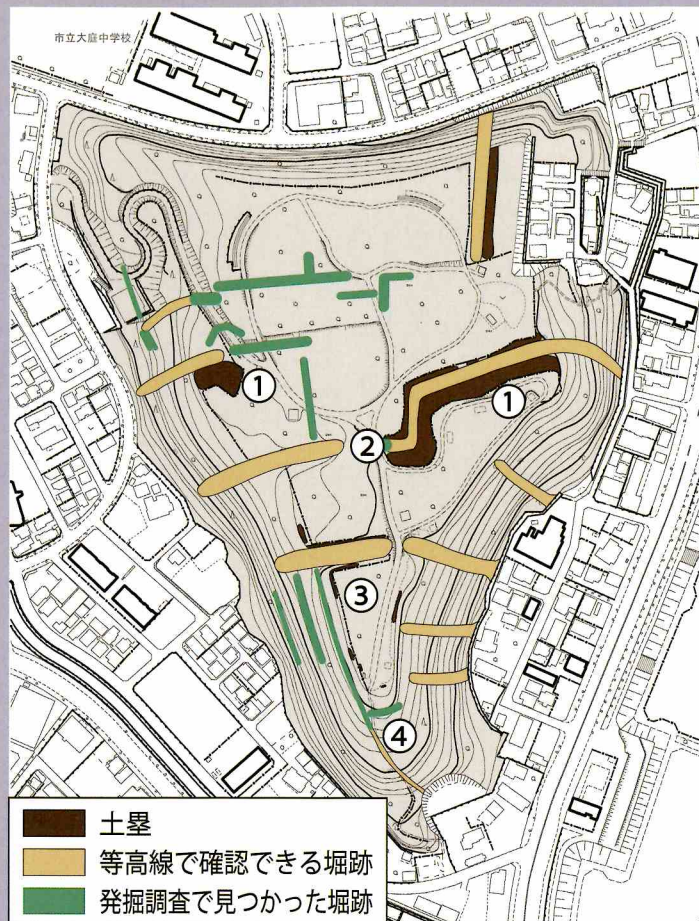


大庭城主郭部分の斜面模式図

大庭城址公園は憩いの場として広く親しまれていますが、公園内にはここがかつてお城であった頃の名残が良好に保存されています。ここでは5カ所の地点を紹介しますが、この他にもたくさんの土塁や堀が存在しています。

公園内にある小さな窪地や高まりも、もしかしたら大庭城の遺構かもしれません。

※公園内には立入を制限しているロープがありますが、危険ですのでその外には絶対に出ないでください。



大庭城址公園内に残る主な遺構



①土塁

この場所は大庭城跡の中でも最も残りの良い土塁で、最大約4mの高さがあります。これだけの規模の土塁が残る城は神奈川県内にほとんどありません。



②堀跡

番号の位置から東を見ると、大庭城に築かれた堀と土塁を見ることができます。現在、堀はほとんどが埋まっていますが、相当深い堀であったと考えられます。



③館址広場

昭和40年代の発掘でこの場所からは4棟の掘立柱建物跡が見つかりました。現在はこのうち2棟の規模を石柱で表示しています。 ※石柱と実際に建物跡が見つかった位置は異なります。



④南入口からの道

公園になる以前から存在していた道ですが、平成30年の発掘でこの道の一部区間が埋まりかけた堀跡を利用して造られていたことが判明しました。

年号	西暦	主な出来事
きょうとく 享徳元年	1452	この頃までに、 ^{おうぎがやつうえすぎ} 扇谷上杉氏が ^{おおばみくりや} 大庭御厨を所領とする。
かんしやう 寛正6年	1465	伊勢神宮、大庭御厨からの年貢未進を扇谷上杉氏の家宰・ ^{おおたどうかん} 太田道灌に訴える。
ぶんめい 文明元年	1469	伊勢神宮の ^{あらきだうじつね} 荒木田氏経、大庭御厨代官の ^{でぐち} 出口氏・ ^{むろた} 室田氏により、年貢が横領された旨を、太田道灌に訴える。
ちやうきやう 長享2年	1488	^{ともまさ} 扇谷上杉朝昌、 ^{やまのうちうえすぎ} 山内上杉氏との合戦に敗れ、守備していた七沢要害（厚木市）を放棄し、大庭城へ移る。
めいおう 明応8年	1499	^{ぎよくいんおしょうごろく} 『玉隠和尚語録』に大庭に城郭が存在していた記述がある。
えいしやう 永正9年	1512	^{いせそうすい} 伊勢宗瑞（ ^{ほうじやうそうん} 北条早雲）、扇谷上杉方の城を攻撃し、岡崎城（伊勢原市・平塚市）や大庭城が落城。
えいろく 永禄2年	1559	玉縄北条氏の一族と考えられる ^{ふくしまさえもん} 福島左衛門が玉縄衆として、180貫文で大庭を知行。（ ^{おだわらしゅうしよりようやくちやう} 『小田原衆所領役帳』より）

大庭城および扇谷上杉氏関連略年表



大庭城跡へのアクセス

バス利用

- 藤沢駅北口から「藤 39 大辻経由湘南台西口行」
 - 辻堂駅北口から「辻 28 大辻・湘南カントリー経由湘南ライフタウン行」
 - 湘南台駅西口から「藤 39 大辻経由藤沢駅北口行」
- すべてバス停『城下（しろした）』下車、徒歩約5分

- 藤沢駅北口から「藤 12 隧道・駒寄経由湘南ライフタウン行」
 - 辻堂駅北口から「辻 24 隧道・駒寄経由湘南ライフタウン行」
 - 湘南台駅西口から「辻 26 隧道・駒寄・桐ヶ谷経由辻堂駅北口行」
- すべてバス停『大庭小学校』下車、徒歩約10分

駐車場

31台（無料）・身障者用3台（無料）
9：00～16：30（4月～9月は9：00～17：30）



湘南の名城 藤沢市指定史跡 大庭城跡
令和4年12月発行
編集・発行 藤沢市郷土歴史課
〒251-8601 神奈川県藤沢市朝日町1番地の1

